



休み中に読んでほしい本 創刊号

成瀬高校では毎年小冊子「夏休みに読んでほしい本」を1年生の皆さんにお配りしていますが、今回、先生方の協力を得て、そこから抜粋し、新作も含めWeb版で再開の日まで定期的にお届けすることにしました。初回は世界史です。

『世界史を変えた薬』 佐藤 健太郎 著 (講談社現代新書)

成高のみなさんは、習慣として“帰宅したら手洗い”をしていることと思います。「手洗い」「アルコール消毒」「咳エチケット」はもう常識ですね。

ところで、この手洗いによる「消毒」という概念——。実は19世紀の医療業界にはありませんでした。発端は1846年、「手を洗う」ことによって「産褥熱」（出産時に母親がかかる感染症）の死亡率を12%から3%にまで引き下げられることをある研究者が突きとめたのです。しかし、現代では当たり前の感染予防策として「手洗い」は、当時の医学会では受け入れられず、この研究者は失意のうちに亡くなってしまいました。今、世間を騒がせている「新型コロナウイルス感染症」についてもきっと近い将来、予防策・特効薬が発明され、医学史に・経済史に・世界史に、この話の続きとして刻まれていることでしょう。

話は変わりますが、「週刊ジャンプ」連載中の『ドクターストーン』を知っていますか？私はアニメ版しか知りませんが「サルファ剤」なるものが登場します。歴史のなかで、このサルファ剤がどのように発見され、使われたのか……。こちらにも本書に書かれています。長い休み中に、長編漫画を読むのもいいでしょう。ついでに、関連する知識を深めてみることもオススメです。

『沈没船が教える世界史』 ランドール・ササキ 著 (メディアファクトリー新書)

地中の化石を調べるように、沈没した船を調べることで、紐解ける歴史があります。そんな研究をしているのが、「水中考古学者」です。

沈没した船からは何が見つかるでしょう。陸揚げに至らなかった交易品？ そうですね。乗組員の生活用品！ 確かに、そんなものもあるはずですよ。

驚きなのは、時にゴキブリなども発見されること！

え、有機物なのに腐らないの？ と疑問に思うなら、ぜひ海の中に閉じ込められてしまった時間のかけらを、読んでみてください。